

第17回理学懇話会のご意見

ご意見
プレゼンテーション「理学研究科の人材育成 ～阪大卒は使えると言われているが」について
阪大生の教育レベルが比較的整っている感がある。京大・東大はバラツキが大きく、当たりはずれはあるが、当たる人材は非常に有能という感がある。
種々のランキングの評価がランキングの種類により異なり、どのように考えれば良いか難しいと考えました。ランキングをあまり気にすることなく”阪大らしさ”を出していくことが大切。
大学の総合評価にとらわれすぎない様に考えられないだろうか。総合評価よりもむしろいくつかの切り口について拘って特徴のある研究活動&教育を実践していくほうが重要。
難しい問題とは思いますが、まずは自分達の解析(各種評価で何が評価を変えているのか、阪大の強い点、弱い点は何か)をみること。
阪大が一流になりきれていないというのは順位の変動に反映されていると思う。強みを作ることが重要。
ランキングがすべてを物語っているわけではないですが、ランキングは1人歩きして、多くのことを語ってしまう怖さがあります。ランキングを上げるよう論文の作成等に注力してほしい。
プレゼンテーション「理学部卒業生として、どんな人材が求められているか」について
特に限定的な人材というより様々な特徴を持つ人材が必要です。
博士にこだわって採用しているわけではなく、企業はさまざまな角度から人材を評価している。専門知識もさることながら、バイタリティ、チームワーク、広い見識、深い洞察力が要求される。
理学部卒という視点では、マネジメントの要素よりも研究の基礎的な能力をきちんと身につけておくことを期待します。
どこのレベルでの人材として考えていかも明確にした方が良い。大学教育、仮説と検証できること、地頭を鍛えることを期待します。
会社で与えられている課題では一人で解決できるものは少ないです。そのために周囲を巻き込むコミュニケーション能力を強めてほしい。
物事の本質、原理原則を考慮し、応用展開できる能力。現状の修士卒者で十分な能力が備わっていないと考える。研究室配属後の教育だけでなく、阪大入学と共に考えていくべき施策が必要。
博士取得は企業人として重要である。難しいことではありますが、コミュニケーション能力を持つ博士人材の養成を期待します。
プレゼンテーション「理学研究科の現状報告」について
学部→修士→博士 への付加価値とは何か企業にアピールする必要がある。
オープンイノベーションの仕組みは改善の余地がある。理学部だけでなく、医・工・基礎工などの連携を考えてほしい。
産学共創による共同研究により会社に何か利益を得られないとなかなか難しい。理学部としては良いシーズをつくるのが大切。
阪大理学部の特色、強み等の情報発信の工夫が必要。教育時間の確保と産学連携両立についても具体的な工夫案をご準備いただきたい。
研究費の減少はシリアスな問題です。理学部は基礎研究が重要ですが、科研費以外の制度にもどんどんトライされたら、この問題も和らぐのではないかと。
理学懇話会全体に関するご意見・ご感想
大変良い取り組みであると考えます。産学連携でもよりよく知り、意見を交わしているというのも大事。
中堅の方々ももう少し増やして全体としてバランス良い構成として、現在の一線の感覚も取り入れたほうが良い。
年々、議論が活発になって面白い会議に発展している。今回、特に意見交換の時間を長く取っていたのが良かった。
産業界から理学教育・理学研究に期待すること
研究対象の底流にある真理(哲学)をしっかりと語ることができる人材を多く輩出していただきたい。
人間教育に力を入れてほしい。専門教育はあるレベルでできている。
あまり世間の動きにまどわされないで基礎研究を極めることを重視してほしい。
小学生が理学に興味を持つようなプログラムがあればと思います。
「基礎研究をベースにした産学連携」に期待すること
大学と企業が補間関係になるような異分野交流から産学連携につながるような活動が重要と考えます。
理学部での基礎研究を産学連携により商品化(製品化)まで求めるのは難しい。(特に医薬品などにおいて)そこを目的とするのではなく科学の本質を明らかにする研究なら自然と会社から注目される。
産学界からはいろいろ横やりはあると思いますが、理学の理念は忘れないでやってほしい。
本質を理解することは企業研究においても極めて重要。この部分で協調できれば有り難い。